

グラビア	地域を支える人 渡部一美さん・山形県鮭川村	1
発掘!地域の希望のタネ	〈丸岡在来〉福井県坂井市	5
給食のじかん	〈地産地消・バイキング給食〉北海道稚内市	山本充俊 6
書評	井上良一著『社会的連帯経済への道』	菅原敏夫 8
焦点	二〇五〇年カーボン・ニュートラルは達成できるか?—第六次エネルギー基本計画を検証する	高橋 洋 10

特集

## どうなる?2022年度自治体財政

解説	「過去最大」が目立ちすぎる膨張予算 —成長と分配を軸にした一〇七兆円超予算	財政問題研究会 16
解説	二〇二二年度地方財政計画の概要とポイント	飛田博史 26
	効率的で効果的な給付のあり方を考える	近藤絢子 40
	加速化する自治体デジタル化とその課題	宍戸常寿 48
	新型コロナ禍における地方移住 —新しい働き方へ向けて	嵩 和雄 55
短期連載	東京オリパラ2020と自治体の現場① オリパラに翻弄される地方自治	中村祐司 63
各県自治研活動レポート	「東海村“自分ごと化”会議」 ～原発問題を自分ごととして捉えるには～—茨城県本部	浅野進太郎 70
	次号予告・編集部から	72



### 『社会的連帯経済への道』

「統」未踏の時代の経済・社会を観る  
社会評論社 二九七〇円

井上良一 著

史上最高!

二〇年度税収は国税地方税共に史上最高を記録している。これ本当だ。

企業業績は良い。トヨタ車はアメリカで一番売れている。株価は三二年ぶりの高値。一方、本当に多くの人が子ども食堂・おとな食堂を必要とし、住まいを失い、職を失っている。実質賃金は低下し、貧困が誰の目にも明らかに。しかしなか



なか数値で表現できない。先月号の本欄で取り上げたように(『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か?』)GDPには本当に大切な労働がカウントされていないのだ。くたばれGDP! GDPは歪んでいて、隠している。

このくつきりと異なる二つの社会が同じ国土に併存している。分配政策はないに等しい。

つらいのは、二つめの社会の住人にも分配政策のほんの取っ掛かりについてさえ「ばらまき」と非難する人がいることだ。マスコミもそちらに同調する。財政健全化が金科玉条。しかし事実は、二〇年度自治体決算、財政は健全化した。市町村はかなり健全化した。

本誌二月号は毎年財政を考える。良い財政とはなんなのかを考えたい。

#### 社会的連帯経済

社会的連帯経済とは株主のための資本主義企業ではなく、アソシエーション(協

同組織)を核とし、新自由主義に連帯して対抗していこうとするものだ。疎外された人びとの仕事を作り、尊厳を回復する、地域の持続可能性をはかる、グローバルなネットワークの協働をめざす(「ソウル宣言」)。分配の回路を待つのではなく、作り出す。

#### DX、コロナ禍

著者は「社会的連帯経済を推進する会」の事務局を担う。社会的連帯経済を解説し、そこに至る思いを日誌風に整理して本書が成立した。

著者はある県庁の職員だった。経歴の大半をコンピュータ、システム開発、情報関連の仕事に割いた。その人のIT敗戦記、それもおもしろかった。DXも組織を自動で変えてくれるわけではない。

今の問題の解決の処方箋全部を社会的連帯経済がもっているわけではない。読者として考えよう。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員